


海外感染症情報

情報源：
厚生労働省検疫所ホームページ
(<http://www.forth.go.jp>) 新着情報

発生地域	更新年月日	情報内容
—	2016年06月10日	ジカウイルス感染症の発生状況（更新17）★
東アジア	2016年06月10日	鳥インフルエンザ A(H5N6) の発生状況（更新6）

★【2016年06月10日更新 ジカウイルス感染症の発生状況（更新17）】

2016年6月9日付けで WHO より発表されたジカウイルス感染症（いわゆるジカ熱）の発生状況に関する報告です。ジカウイルス感染症の発生状況は以下のとおりです。

【概要】 *一部省略

- 6月8日現在、蚊の媒介によってジカウイルスの感染伝播が、合計60の国と地域で報告されています。蚊の媒介による感染伝播の内訳は以下のとおりです。
 - ・46か国で、2015年以降に初めてジカウイルスの流行発生が発生しました。これらの国では、これ以前に流行が発生した証拠はなく、現在も蚊による感染伝播が続いています。
 - ・14か国では、2007年から2014年までにジカウイルスの感染伝播が報告されました。これらの国では、現在も感染伝播が続いています。
- 10か国（アルゼンチン、カナダ、チリ、フランス、ドイツ、イタリア、ニュージーランド、ペルー、ポルトガル、アメリカ合衆国）でジカウイルスの人から人への感染伝播が起きていた証拠が報告されています。感染経路は性交渉によるとみられています。
- 6月8日の週には、蚊から人への感染伝播も、人から人への感染伝播も、新たに報告された国はありません。
- これまでの調査に基づけば、ジカウイルスが小頭症やギラン・バレー症候群の原因であるということで、学術的に意見が一致してきています。
- WHO は、ジカウイルスの発生状況の中でのさまざまな話題に関する新たな助言や情報を作成しています（<http://www.who.int/csr/resources/publications/zika/en/>）。企業や計画的なリスクの情報伝達、地域活動を支援するために、WHO は最新の資料、ニュースおよび情報源を公表し、オンラインで入手できるようにしています（<http://www.who.int/risk-communication/zika-virus/en/>）。

【リスク・アセスメント】

カーボヴェルデ共和国でのアジア系統（ウイルス）の存在意義は未だ不明ですが、全体として、世界でのリスク評価に変更はありません。ジカウイルスは媒介能力をもつ蚊が生息する地域で、地図の上で拡がり続けています。いくつかの国やその国の一部の地域では、ジカウイルス感染症の患者が減少する傾向が報告されていますが、警戒体制を強化しておくことが必要です。利用できる証拠に基づいて、現段階で、WHO は全体として流行が弱まる傾向にあるとはみていません。